

お菓子と人と、

Her Sweets, Her Shop. 彼女のお菓子、彼女のお店。



【ダブルケーキ】には、いわゆる一般的なショートケーキの類がない。そのぶんチョココレートや焼き菓子、ギフトのパリエーションが豊富で、みやげ菓子にぴったりのラインナップが光る。



馬場 加奈子 | Kanako Baba

済々養高校卒業後、東京の日本菓子専門学校に進み、同校アシスタントを経てフランス・パリへ。ドバイの【Restaurant Nobu】でシェフパティシエ、スペイン勤務を経て帰国。2021年春に自店をオープン。



DOBLE K ドブルケー
熊本市中央区菊山1-31-20
☎ 096-221-1697
営業時間 9:00~18:00

*定休日は基本火曜、詳しくはInstagram @doblek2021 で確認を

Kanako Baba DOBLE K

完成されているのに気取らない、ダブルケーキという名の個性。

オーナーパティシエの加奈子さんは、フランス・パリでの修行経験や、ドバイ、スペインの5つ星ホテルなどで実績を積んだ華々しい経歴の持ち主だ。さぞやり手のパティシエなのだろう。と想像していたら、目の前にあらわれたのは、深いグリーンのTシャツに身を包んだ、清々しい人だった。

ことを決意した。同店の看板菓子は3つ。ヘーゼルナッツとチョコを何層にも重ねた「Obiyama」と県産小麦を使ったブルーベリーチョココレートの「ムースドブレケーキ」、そしてチーズケーキだ。特に無類のチョコ好きである加奈子さんが、「美味しいチョコを頬張ってもらいたい」と意識してつくられた前者2つは、どちらも素材の持ち味をストレートに伝えてくれるケーキ。極めてシンプルなフォルムのなかに、緻密な技術を集結させた意欲作で、まさにうっとりする美味しさだった。「一番食べたい」と思っている、一番いい素材でつく

ることを。それが私らしいケーキだと思っています。午前9時。「ダブルケーキ」の開店の時間である。平日の朝早くにも関わらず、お目当のお客さまが集まってくる。お目当のものが決まっている方、ひととおりの購入される方、嬉しそうに予約を入られる方。注文を受けて、ケーキを詰め、勘定する。朝日が差し込む涼とした空間のなか、無駄のない一連の流れが小気味いい。その様子を眺めながら、一般的な菓子店より早めのオープン時間の理由を尋ねると、「自信がなかったから」とはにかむ。その謙虚さも、この上ない魅力だ。

「子どもの頃から自分のお店を開くのが夢でした。忙しかった両親の代わりに夕飯を作って、美味しいって喜んでくれたのが原点のかな。やさしく言葉を紡ぐのは、カフェ「ペフメア」のオーナー、秋永琴実さん。栄養士として、2児の母として。慌ただしい日々を過ごしながら大切に温めてきた夢は、昨秋ついに実を結んだ。「ペフメア」はフィンランドの言葉で「やわらかい」の意味。その名のとおりこの場所は、耳をくすぐるBGM、そっと包むような空気までもがやわらかく、やさしい隠れ家だ。

ランチタイムには山盛りのサラダやサンドイッチ。ティータムには、手作りのケーキや焼き菓子を。日を重ねることに熟成して深みを増すチーズケーキや、濃厚なチョココレートケーキには、くまをかたどった愛らしいクッキーがちょこんと顔をのぞかせる。「昔からオイルときび砂糖の素朴な焼き菓子が大好き」と話す秋永さんがクッキーに使うのは、地元の「坂本製油」から仕入れるしらしめ油。あんこは、親戚が営む和菓子店「藤ひろ菓舗」から。彼女の「好き」が自然と集まってきたお菓子は、心と身体に

しみじみと美味しい。小さな焼き菓子店でもある同店には、テイクアウト目当ての常連さんも多い。「クッキー一枚からでも大歓迎。疲れているとき、ちょっと息抜きしたいときに、気軽に立ち寄って明日もがんばろうって思える場所になれたらいい。そのあたりのかなエールは、家に持ち帰ったお菓子にも確かに宿っていた。いつもよりちょっと丁寧にお茶を淹れて、お気に入りの器を選んで。ひとくち食べることに気持ち明るくなる、とっておきの2倍美時間を過ごしたい。



秋永 琴実 | Kotomi Akinaga

阿蘇市出身。料理好きが高じて栄養士の道へ進むも、2020年11月、幼い頃からの念願だったカフェ「ペフメア」をオープン。私生活では、3歳の女の子と7歳の男の子のママとして子育てに奮闘中。

Pehmeä ペフメア
営業時間 11:30~16:30
定休日 日・月曜。土曜、祝日は不定休
所在地 益城町小池周辺

*自宅兼店舗のため、詳しい住所はInstagram @_pehmeaのDMで問い合わせを



ペフメアの焼き菓子がやわらかい記憶を運んでくれる。

おいしさを真摯に実現してくれる、熊本のいまのつくり手たち。それぞれのスタイルで活動する彼女たちのお菓子に会いに。



これまで少しずつ集めてきたというアンティークのぬいぐるみやオブジェに、人柄があらわれている。単品でもギフト購入もできるクッキーは、どことなくレトロで可愛い。毎日のおやつにも、今は会えない大切な人への贈りものにも。

Kotomi Akinaga Pehmeä

